

**令和2年度(2020年度)  
醸造用ぶどう生産者アンケート調査  
結果概要**

令和3年(2021年)3月

北海道農政部生産振興局農産振興課

# 醸造用ぶどうアンケート調査の概要

項目	説明
調査目的	本道における醸造用ぶどうの生産拡大に向けた施策検討の基礎資料とする。
調査期間	令和2年(2020年)12月～令和3年(2021年)1月
調査方法	市町村に調査対象者への調査票の配布及び調査票の回収を依頼
調査対象者	次のいずれかに該当する方 ①ワイナリー等に自ら生産した醸造用ぶどう原料を契約出荷している生産者 ②自ら醸造用ぶどうを栽培・醸造している生産者 ③醸造用ぶどう生産への新規就農・参入希望者（研修中の方も含む） ※①～③のいずれも、生食用ぶどう品種は調査対象外 ※③の新規就農・参入希望者の方は、現時点で記載できる設問のみ回答を依頼

# 醸造用ぶどう生産者・醸造者アンケート調査結果概要

## ■ 回収率

○ **回収率：64.8%（調査対象者数199、回答者数129）**

## ■ 回答者の属性

○ **空知・後志・上川で、全回答者の約7割**

空知29名、石狩4名、後志：44名、胆振6名、渡島6名、檜山2名、上川20名、留萌1名、オホーツク4名、十勝11名、釧路2名

○ **経営の区分は、回答者の54%が個人、40%が法人経営  
経営代表の平均年齢は、53.1歳**

個人経営54%、法人経営40%、その他（地方公共団体等）6%  
経営代表の平均年齢53.1歳、個人経営51.7歳、法人経営55.1歳

○ **経営形態は、醸造用ぶどう専業が5割**

①醸造用ぶどう専業：46% ②果樹専業：11% ③果樹・稲作複合：5%  
④果樹・畑作複合：23% ⑤新規就農・参入希望者：6% ⑥その他：10%  
※その他：ワイナリー、上記以外の複合経営、公設・JA（試験）等

## 1 回答者の栽培年数と栽培面積

### ○ 栽培年数の平均は13.1年、5年未満が約3割

栽培年数	回答者数	割合
5年未満	35	28.5%
5年以上10年未満	31	25.2%
10年以上20年未満	25	20.3%
20年以上	32	26.0%

### ○ 回答者の醸造用ぶどう栽培面積は、合計で約462ha

### ○ 5ha以上が全体の約2割、3ha未満が全体の約7割

栽培面積(未収益期間含む)	回答者数	割合
1ha未満	38	30.4%
1ha以上3ha未満	50	40.0%
3ha以上5ha未満	12	9.6%
5ha以上10ha未満	18	14.4%
10ha以上	7	5.6%

## 2 現在、栽培している醸造用ぶどうの品種（複数回答可）

- 赤ワインは、作付面積でピノ・ノワール、山幸、ツヴァイゲルトの順に多く、作付者数は、ピノ・ノワール、ツヴァイゲルト、メルローの順に多い
- 白ワインは、作付面積・作付者数ともにシャルドネ、ケルナー、ピノ・グリの順に多い

区分	品種名	回答者数	面積 (ha)
赤ワイン	①ピノ・ノワール	65	58.2
	②山幸	13	32.9
	③ツヴァイゲルト	34	30.1
	④MHAM	4	16.7
	⑤清見	4	16.5
	⑥セイベル13053	18	16.1
	⑦メルロー	25	15.4
	⑧ロンド	2	10.8
	⑨ヤマブドウ	6	3.1
	⑩レгент	3	2.7
	上記以外の赤ワイン用品種	48	43.0
	計		245.5

区分	品種名	回答者数	面積 (ha)
白ワイン	①シャルドネ	48	39.0
	②ケルナー	41	35.0
	③ピノ・グリ	35	16.5
	④ミュラートウールガウ	17	15.8
	⑤ソーヴィニヨン・ブラン	28	15.1
	⑥バッカス	16	13.5
	⑦ゲヴェルツトラミナー（トラミナー）	21	9.7
	⑧ヴァイスブルグンダー	4	7.4
	⑨セイベル5279	8	7.1
	上記以外の白ワイン用品種	37	27.4
	計		186.4

■栽培している醸造用ぶどうの品種の作付者数・面積

※複数回答

### 3 醸造等の状況

- 醸造の状況は、「自ら醸造」と「委託醸造」をあわせて、68者で約53%。
- ワイナリー等に全量を原料出荷しているのは、56者で約43%。

#### ・自ら醸造

- ①している： 40名
- ②していない： 72名
- ③未回答： 17名

#### ・委託醸造（生産者が販売）

- ①している： 28名
- ②していない： 74名
- ③未回答： 27名

#### ・ワイナリー等への原料の契約出荷

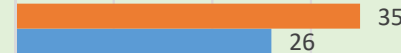
- ①全量出荷している： 56名
- ②一部出荷している： 5名
- ③していない： 54名
- ④未回答： 14名

※回答者数129名

## 4 苗の入手・確保先

- 「契約ワイナリー等からの配布または斡旋」は35者、「道外の苗木業者から個人等で購入」が68者と、ふたつで大半を占める。次いで自家生産が18名
- 個人または自社で道外からの購入は、山形や山梨が中心。

①原料出荷契約をしているワイナリー等からの配布または斡旋



単位：人

②道外の苗木業者から個人または自社で購入



③道外の苗木業者から農協等の団体等を通して購入



④道内の他の生産者等からの購入



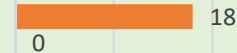
⑤道外の他の生産者等からの購入



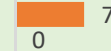
⑥全部または一部を輸入で調達



⑦自家生産（地域のグループでの生産を含む）



⑧その他

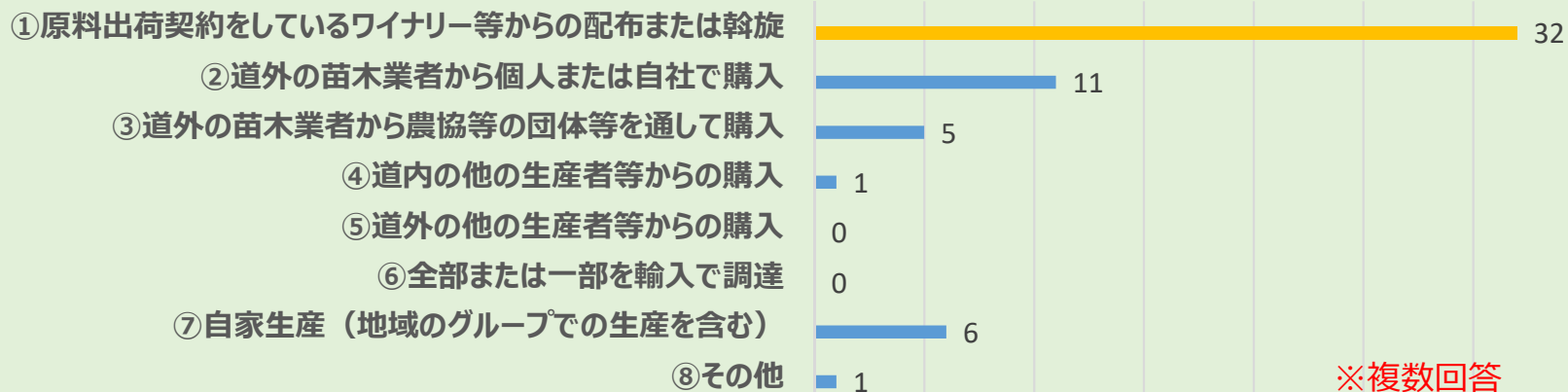


※複数回答 回答数（上段）141名、うち主たる手段とした回答数（下段）100名

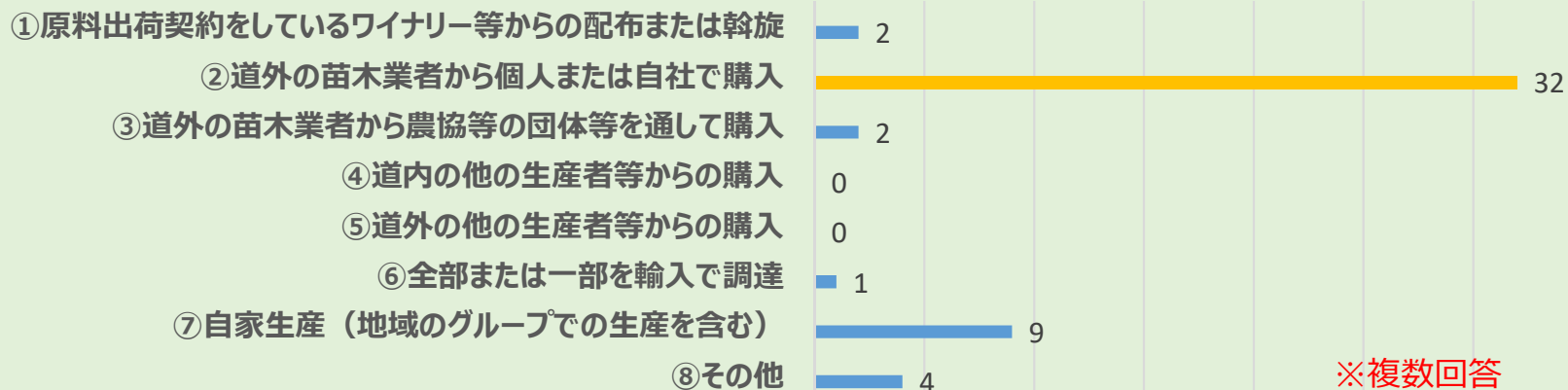
## 4 苗の入手・確保先（続き）

- **ワイナリーに全量原料出荷している場合の、苗木の確保方法は「ワイナリーからの配布または斡旋」が最も多い。**
- **自ら醸造している者の苗木の確保方法は、「道外の苗木業者から個人等での購入」が最も多い。**

全量ワイナリーへ原料契約出荷している



醸造を行っている

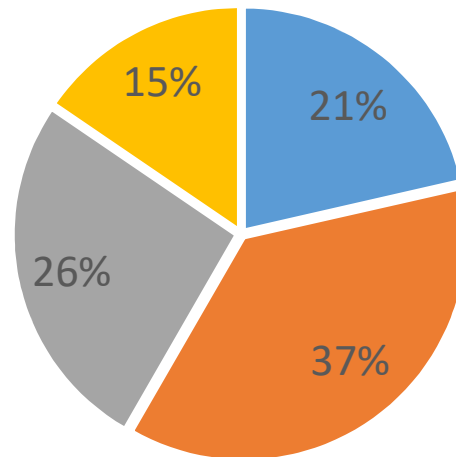




## 5 苗木の入手で困っていること

- 何らかの理由で「苗木入手で困っている」との回答は、58者(45%)、「困っていない」との回答は、49者(38%)。
- 困っている理由で最も多かったのが、「必要な数量が手に入りにくい」で回答数31で37%。

区分	実数	割合
困っていない	49人	38%
何らかの理由で困っている	58人	45%
未回答	22人	17%
計	129人	100%



- ① 欲しい品種が手に入りにくい(回答数18)
- ② 必要な数量が手に入りにくい(回答数31)
- ③ 希望する品質(等級)の苗木が手に入りにくい(回答数22)
- ④ その他(回答数13)

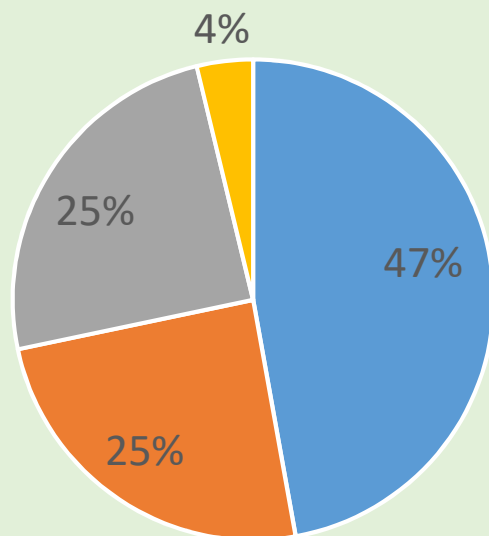
病気の問題(ウイルス)が大きい  
品種の系統を選べない、台木も選べない  
品種のクローンの入手が難しい など

### ■ 苗木の入手で困っている・いない別

### ■ 苗木の入手で困っていること (※複数回答: 回答総数85)

## 5 苗木の入手で困っていること（続き）

- 困っていない理由として、「ワイナリー等の配布または斡旋を受けているため」との回答が最も多く、回答数25で、47%を占める。
- 続いて、「自分で苗木を生産しているので、特に困っていない」と「更新時期が来ていないので、当面入手する必要はない」が、回答数13で、25%を占める。



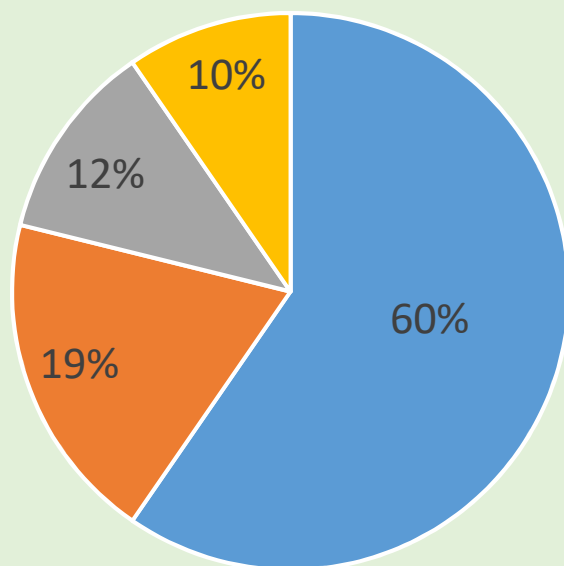
- ①ワイナリー等の配布または斡旋を受けているので、特に困っていない(回答数25)
- ②更新時期が来ていないので、当面入手する必要はない(回答数13)
- ③自分または地域で苗木を生産しているので、特に困っていない(回答数13)
- ④その他(回答数2)

・困っていない  
・購入しているが困っていない

■ 苗木の入手で困っていない理由（※複数回答：回答総数53）

## 6 希望の苗木が手に入らなかった場合の対応 (回答対象：5で「苗木の入手で困っている」と回答)

- 「手に入るまで待つ」が最も多く、半数を超える60%で、「入手可能な他の品種等に切り替える」は19%。
- 「その他」の回答は、苗木の自家生産や入手ルート再検討など。



- ①手に入るまで待つ
- ②手に入りやすい他の品種等に切り替える
- ③栽培面積拡大については、当面あきらめる
- ④その他

・自家生産（自根苗、挿し木）  
・苗木業者と交渉  
・別な業者を探す  
・未定 など

## 7 令和2年（2020年）春の植栽用苗木の確保状況

- 回答者のうち66者が購入したと回答し、確保率は約90%  
R元より約10ポイント向上。
- 品種は、ピノ・ノワールやシャルドネ、ケルナーが多い。

単位：本

区分		R 2 (2020) 年植栽用		
		希望本数	確保済	確保率
購入本数等		<b>109,324</b>	<b>97,950</b>	<b>89.6%</b>
品種	ピノ・ノワール	24,897		
	シャルドネ	18,571		
	ケルナー	8,848		
	ゲビュルツトラミナー (トラミナー)	6,332		
	ツヴァイゲルトレーベ	4,905		
	ピノ・グリ	4,577		
	その他	29,820		

■ 苗木の確保状況（令和2年植栽分）

## 8 今後3年間に購入を希望する苗木

- 今後3年の単純平均で約6.6万本/年の購入希望がある
- 令和3年植栽用で確保率は約82%、令和4年以降の確保率は小さい
- 品種は、ピノ・ノワールやシャルドネの希望が多い

### ■ 苗木の年次別需要量（今後3年間）

単位：本

区分	R3(2021)年植栽用			R4(2022)年植栽用			R5(2023)年植栽用			今後3年平均		
	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率	希望本数	確保済	確保率
<b>希望本数等</b>	<b>115,178</b>	<b>94,715</b>	<b>82.2%</b>	<b>46,827</b>	<b>20,540</b>	<b>43.9%</b>	<b>37,110</b>	<b>1,500</b>	<b>4.0%</b>	<b>66,372</b>	<b>38,918</b>	<b>58.6%</b>
ピノ・ノワール	26,003			19,070			14,910			19,994		
シャルドネ	22,224			7,314			2,850			10,796		
ツヴァイゲルト	11,693			1,705			1,395			4,931		
ケルナー	5,642			1,585			3,685			3,637		
ゲヴェルツトラミナー (トラミナー)	5,631			3,180			220			3,010		
ピノ・グリ	5,382			1,820			340			2,514		
その他	38,603			13,973			14,050			22,209		